

平成17年度

河川名	地点	水素イオン濃度 PH		生物化学的酸素要求量 BOD		浮遊物質量 SS		溶存酸素量 DO					
		月	年平均	月	年平均	月	年平均	月	年平均				
神田川	久保前橋	5	8.2	8.2	5	2.0	1.1	5	2	2.0	5	9.8	10.5
		9	8.3		9	1.0		9	3		9	10.2	
		11	8.1		11	0.7		11	1		11	9.9	
		2	8.2		2	0.7		2	<1		2	12.0	
	高戸橋	5	7.1	7.3	5	1.3	2.0	5	1	1.7	5	8.6	8.5
		9	7.3		9	0.5		9	2		9	8.8	
		11	7.5		11	0.7		11	<1		11	8.2	
		2	7.1		2	5.3		2	2		2	8.5	
妙正寺川	四村橋	5	7.8	7.7	5	1.8	1.5	5	2	2.5	5	11.0	11.8
		9	7.9		9	1.1		9	4		9	13.1	
		11	7.6		11	1.3		11	3		11	8.9	
		2	7.4		2	1.8		2	1		2	14.0	

各項目の解説

水素イオン濃度 (PH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強く、7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。

環境基準 6.5 ~ 8.5 (C類型)

生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物が水中の汚れ(有機物)を食べる(酸化分析)時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。

環境基準 5 mg / l 以下 (C類型)

浮遊物質量 (SS)

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。

環境基準 50 mg / l 以下

溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。

環境基準 5 mg / l 以上 (C類型)